

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
1	8月17日(日) 潮見集会所	小学生の頃から芦屋に住んでいますが、小学校時代に広報の小学生版が配られたり、ルナ・ホールの音楽会に参加した本物の体験がとても良い経験だったと話します。現在は情報が多すぎて親が「こうしてほしい」と言いがちで、こどもの主体性が損なわれていると感じます。こども自身が何をしたいか考えられるように、自分に対する自信を育てる実体験を教育現場や地域で大切にしてほしいです。	現代はインターネットで情報が得られる時代であるものの、本物に触れる機会は極めて大事だと思いますし、小中学校だけでなく、幼稚園、保育所、こども園での体験も大事だと考えています。会下山遺跡については今年度予算を計上し、さらに力を入れていく方針です。今後はより多くの市民に知ってもらえるよう、高床式倉庫体験などのイベントに加え、その他の様々な文化遺産も活用してもらえるような活動を進めていきたいと考えています。「ちょうどの学び」とは、一人ひとりに合った学びを公立学校で実現する考え方です。従来の「みんな同じ」という学校観ではなく、「一人ひとりに合うことを大事にしよう」という思いを込めて、「公正」という言葉を使っています。「最適」という言葉については、一人一人にあった学びを提供することですが、それを教師が一方的に決めるのではなく、こども自身が見つけることを大切にし、教師がそれを支援していく姿勢が重要だと考えています。芦屋のこどもたちの英語学力は全国平均を大きく上回る高いレベルにあるものの、英語を「好き」と感じている小学生が少ないことが課題だと認識しています。今後は、能力を活かし、実践的に英語を使う体験や楽しさを感じられる機会を提供していきたいと考えています。	
2	8月17日(日) 潮見集会所	教育大綱の「ちょうどの学び」という表現がよく分からず、「最適」という言葉は抽象的に感じます。語学では中学校卒業時の到達目標を市長はどう考えているのか知りたいです。また、会下山遺跡の発掘にかかわった方の体験をこどもたちに伝える機会や、大人向けの広報もしてほしいです。		
3	8月17日(日) 潮見集会所	学校が主体性を育む方向に変わろうとしているのは分かりますが、家庭でも同様に主体性を育てられる施策が必要だと思います。家と学校で考え方が違うとこどもが混乱するので、家庭向けの支援があればいいと思います。	ご家庭だけでこどもの成長を支えるのは大変ですので、家庭・学校・地域がうまく役割分担をして、協力し合うことが大切だと思います。そのために、「何かしたいけれど、やり方がわからない」という方が気軽に行動できるような環境づくりを、教育委員会や市民参画・協働推進課などが連携して進めていきたいと考えています。	
4	8月17日(日) 潮見集会所	主体性が欠けているこどもがいるのは、親も含め主体性について十分に学んでこなかったことが原因ではないかと感じています。具体策は分かりませんが、親への支援や子どもの学習環境を整える道筋が必要だと思います。	また、保護者の方への支援について、現在の保健師によるサポートは発育・発達が中心で、学びの面でのサポートがまだ十分ではないと感じています。今は「Education Day」などのイベントで市の教育を知っていただく機会を設けていますが、今後ご家庭へどのようなサポートができるか、教育委員会としっかり話し合っていきたいと思います。	
5	8月17日(日) 潮見集会所	親の役割は子どもに環境を与えることだと思います。家にいるだけでは主体的に行動するのは難しいので、いろんな経験を与えてあげることが大事だと思います。その中で、部活動は多くの学びの機会を提供してきましたが、来年で終わってしまうことが残念です。顧問の先生の負担が大きいので、先生が毎回同行しなくてもよい柔軟な体制やIT活用、学校側の支援を組み合わせで継続してほしいです。教員自身が部活動をやりたくてなった人もいるので、やりたい先生が関われる仕組みが必要だと思います。	現在の部活動は先生方のボランティアに支えられており、先生の大きな負担となっています。一方で、部活動がこどもたちにとって非常に重要な役割を果たしてきたことも事実です。そこで芦屋市では、地域の「面白い人」や色々な活動をされている方の力をお借りした新しい地域クラブ活動の展開を進めています。8月から様々な団体の募集を始めており、従来の部活動にはなかった「料理」など、こどもたちが本当にやりたい活動を生み出し、魅力的な大人と出会うチャンスにしたいと考えています。本格移行まであと1年ですので、秋以降に教育委員会から説明会を行うなど、積極的に情報発信をしていきます。また、先生方の中には「授業に集中したい」という方がいる一方で、「部活の指導もしたい」という方もいらっしゃいます。部活動を担当しないことがプレッシャーにならないよう配慮しつつ、希望する先生だけが仕事以外の形で無理なく関わっていただけるような仕組みづくりもあわせて進めていきたいと考えています。	
6	8月17日(日) 潮見集会所	子どもには地域の多様な「面白い人」に出会ってほしく、それが実現できるのが公立学校の強みだと思います。地域の方々に先生や見本となって実体験を語っていただき、子どもたちが「面白さ」を感じられるような地域の教育環境になってほしいと思います。		
7	8月17日(日) 潮見集会所	西浜公園で行われた「探検隊」イベントでこどもたちが生き物を見つけて生き生きしていました。こうした親子が参加できる企画があるといいと思います。		

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
8	8月17日(日) 潮見集会所	学校が一律から個別対応に変わっていくと先生の負担が増えるのではないかと感じています。現在の教員数で対応できるのでしょうか。	市立小中学校の先生は市ではなく県の職員であり、人数や配置も県が決めるため、市が独自に増やすのは難しいのが現状です。 そうした中でも市としては、先生の業務を軽減する「業務改善サポーター」を増やしたり、こどもをサポートする職員を各校に配置したりと、できる工夫を重ねています。 ただ、産休や療休などで先生が不在になった際、その代替を教頭先生が担うのは大きな負担です。できるだけ早く代わりの先生を配置できるよう、教育委員会も努力していますが、改めて伝えておきます。	
9	8月17日(日) 潮見集会所	子どもが2年生の時に担任の先生が産休に、4年生では病休に入った際、どちらも後任がすぐに決まらず、教頭先生が兼任されていました。他の学年でも同様のケースがあり、先生方に余裕がない現状では、子どもの主体性を育むのは難しいと感じています。 芦屋市としての教員配置の現状はどうなっているのでしょうか。また、担任が長期不在となった際に、一時的でもそのクラスを専任で担当できる代替の先生を配置することはできないのでしょうか。		
10	8月17日(日) 潮見集会所	地域クラブ化すると指導者に費用が発生し、経済的に参加が難しくなる子が出る懸念があります。できるだけ費用を抑えて多様な子どもが参加できる形になればいいと思います。	これまで部活動が無料だったのは、教員が無償で引き受けてくれたからこそでした。難しい問題ですが、一方で無料だったからこそ子どもたちが気軽に新しいことへ挑戦できていた面もあります。 今後は、スポーツクラブのように高額にならないよう、金銭的な負担を抑える工夫をしていきたいです。例えば、学校のグラウンドや教室を活用して場所代をかけないようにすることで、費用のかからない活動を実現できればと考えています。	
11	8月17日(日) 潮見集会所	不登校の保護者です。担任の先生の対応に差があり、以前は毎日電話で接触がありましたが、今年は担任の先生の負担を考えて控えてもらったところ、情報や進路指導が不足しています。 不登校対応についても十分理解していないように感じ、市教委に問い合わせても満足な回答が得られませんでした。不登校児童のオンライン出席の対応のガイドラインや現状を教えてくださいませんか。	現状では目が届いていない部分があること、きちんと受け止めました。不登校やICT教育は担任が対応する仕組みのため、学校やクラスによって対応が異なるのが現状です。教育委員会の方針が学校に十分伝わっていない部分があれば、しっかり伝えていきたいと考えています。 不登校の成績評価については、現在、文部科学省で学習指導要領の改訂が進められており、私も委員を務めています。これまでは評価がつきにくかったのですが、今後はのびのび学級に通っている場合なども評価できるよう、範囲を広げる方向で検討されています。国の方針が決まるまでには時間がかかりますので、市としてもできることから取り組んでいきたいと思っています。	
12	8月17日(日) 潮見集会所	AIテクノロジーを教育にどう活かすか、芦屋市の教育でのパソコン導入状況を教えてください。	現時点で生成AIを授業に積極導入する大きな方針はありませんが、活用できる場面はあると考えています。文部科学省の実証実験に芦屋市が応募し、TBSと連携するAI教材開発の事業が採択されました。まずは研究段階でAIの教育利用の可能性を検討していきます。	
13	8月17日(日) 潮見集会所	PEACEプロジェクトの取り組みは良いと思いますが、やりたい先生だけに依存しているので負担感や実現への速さが不安です。現在、図書館の貸し借りなどのボランティアをしているのですが、教材づくり等で協力したい保護者もいると思うので、保護者の力を借りて変化を早めてほしいです。	昨年から、芦屋の小中学校の先生約300人のうち、わずか十数人で始まった取り組みが、現在は60人ほどにまで増え、学校や学年ごとに協力して教材づくりをはじめとする研究を進めています。 学校ボランティアとして保護者の方々にも協力いただけると、学校側も大変助かります。現在は図書館や給食などが中心ですが、今後は教材づくりにも保護者の力をお借りできるのではないかと考えています。	
14	8月17日(日) 潮見集会所	外国にルーツのあるこどもたちの日本語支援を続けています。教室で話せない子が安心して話せる場づくりや、日本語の教科書だけでなく、算数等を通じた日本語指導も可能だと思います。放課後の宿題支援など、今は個人的にボランティアをしていますが、継続的に関われる仕組みをどう作ればよいでしょうか。	このようなお声をいただけるのは、とてもありがたいです。日本語が話せない状態で来日することでも増えていますので、ボランティアの方のご協力は本当に助かります。 活動を進めていただく際は、まず教育委員会にご相談いただくのが一番良いかもしれません。どのような活動をしたいかを聞かせいただければ、現場の困りごとに合わせてお願いしやすくなると思います。	
15	8月17日(日) 潮見集会所	芦屋市ではありませんが、保育士として、入職1年目は資料作成や発育記録など業務が多く十分に対応できない時期がありました。園によって状況が違うので、フリーの先生や非常勤の増員など人員体制の改善を期待します。	配置基準については、国が徐々に追いついてきているのですけれども、芦屋は公立私立問わず国の基準よりも少し手厚くしています。ぜひ芦屋市で働くことも考えていただけると嬉しいです。	
16	8月17日(日) 潮見集会所	街角自習室のような場を図書館や公民館の空きスペースでつくり、大学生等を有償ボランティアで呼んで学習支援する仕組みがあるといいと思います。 また、小4頃から教科担任制を導入することや、得意教科がある先生の授業を録画して共有することで教材の共有化と教員負担軽減につながると考えます。	新しい取り組みをしている先生方は、それぞれが主体的に研究を進めることをベースにしています。加えて、月1回のリフレクション会議を開き、互いの情報共有や、同じ学校であれば教材の共有も行っています。 また小学校でも、教科担任制とまではいなくても、算数などは特定の先生が全クラスを教えるなど、学年ごとに工夫が進んでいます。こうした取り組みで先生の負担を減らせる部分は多いので、今後も進めていきたいと思っています。	

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
17	8月17日(日) オンライン	「ちょうどの学び」という言葉は曖昧に感じます。主要5教科の重要性が下がる印象があり、私は一般的な学校教育が合わず簿記に出会って学ぶ楽しさを知り、公認会計士試験に合格しました。こうした多様な学びのモデルが増えてほしい一方で、社会には学歴などのハードルがあり、そのハードルを越えられる教育であってほしいと考えています。	学ぶ内容は学習指導要領で定められており、教科書での学習は前提として守る必要があります。そのうえで今回の「ちょうどの学び」で大事にしたいことは2つあります。 1つ目は「学び方」です。こどもによって合う学び方は違います。自分に合った学び方は気づきにくいので、全員が同じペースで黒板を写すのではなく、義務教育期間の間に一人ひとりに合った学び方を見つけられる環境を作りたいと考えています。 2つ目は「学ぶ内容」です。教科書も大切ですが、自分の興味を深く探究することも重要です。芦屋市では今年1月に「探究コンテスト」を開催しました。自分で問いを立てる探究は、さまざまな教科への意欲にもつながります。こうした「ちょうどの学び」を進めていきたいと考えています。	
18	8月17日(日) オンライン	「ちょうどの学び」は良い考えだと思いますが、こどもの特性に合わせるには教師の数が増えるのではないかと懸念します。担任が一人ひとりの特性を把握する負担が増えてしまうのではないかと心配です。私自身、体が弱く体育が苦手だった経験があり、体育もレベル別にすれば得意なこととは伸ばせ、苦手なことはコンプレックスを軽減できるのではないかと考えていますが、人的配置や予算面の課題をどう解消すればよいのだろうか、と感じました。	先生の配置は県が決めるため市に権限はないのですが、先生の負担軽減は真剣に考えるべき課題です。そこで市独自で事務員を雇って集金などを任せたり、欠席連絡アプリを導入したりしています。	
19	8月17日(日) オンライン	勉強の強度について、中学1年生でも高校レベルを学べる子や、教科ごとに得意・不得意がある子など、やりたいレベルと学校の内容に差があってもどかしさを感じる子もいます。学年や誕生月によっても適した学びのタイミングは異なります。子ども自身が学びたい内容やレベルを選べるようにするのは難しく、そのため私立を選ぶ親も多いのではと思いますが、この点についてどうお考えでしょうか。	また、大きな取り組みとして部活動の地域展開を進めています。先生の負担を減らしつつ、「料理部」のような学校にない活動も地域で実現したいと考えています。同時に、小4からデータを使ったアンケートを導入し、こどもの心の変化の把握にも活用し始めました。 レベル別の学習については、先取りよりも「学びを深める」ことを重視しています。ある調査によると一斉授業を「ちょうどいい」と感じる子は4割程度しかいない状況とのことです。そのため、「ちょうどの学び」によって学びの深さを調整することがとても大事だと思っています。学校の役割は新しい知識を身につけるだけでなく、知識を深めたり、自分の頭で考えたりすることも大事だと思いますので、そうした点を大切にしたいと思っています。	
20	8月17日(日) オンライン	市長が小4で高校範囲の数学まで学ばれていたと知りました。塾で学んだ内容と学校授業の重複が生じることがあります。この重複による弊害をどう解決するべきでしょうか。また、先生の当たり外れが生徒の学びに影響する点について、心理学や脳神経科学などの学術的知見を教育に取り入れるべきではないでしょうか。		
21	8月17日(日) オンライン	授業内容がちょうど良いと感じることも約4割、簡単すぎるが約3割、難しすぎるが約3割ということであれば、それぞれに合わせるには3人の先生が必要になると思います。しかし、先生の配置や予算は県が管理しているため、芦屋の学校だけ先生を3倍にすることは難しいと思うのですが、そのあたりはどのように解決すればよいのでしょうか。	先生の役割が変わることも大切だと思います。安易に言える話ではないですが、先生は、一方的に教える形から、こどもたちの学びを横でサポートする「伴行者」へと変わっていくのではないかと思います。クラスメイト同士で伴走し合うことも当然あるでしょうし、先生の支援が本当に必要ときにすぐサポートできる環境づくりが大事だと思います。難易度でコース分けをするのではなく、こども自身がAIの活用なども含め学びを深め、必要なときに先生や友達をサポートできる環境づくりが重要だと考えています。	

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
22	8月17日(日) オンライン	今の学校や先生を前提にせず、ゼロベースでこれからの教育を考えてほしいと思っています。 まず、20年後の世界から逆算する視点が必要です。例えば、今までは英語を話せなくても生活ができたものも、今後は国内市場が縮小し英語や国際語のニーズが出てくると思います。経済縮小やAIの進化が進む中、単なるIT化ではない「真の個別最適な教育」を進めなければ、世界に遅れをとってしまうと危機感を持っています。 また、探究学習がすべての子に合うわけではなく、基礎知識をしっかり入れる方が効果的な場合もあります。一律ではなく、一人ひとりに合った方法を選ぶことも大事だと思います。 市の「学校教育改革推進室」ですが、兼務が多く形だけに見えてしまっています。ぜひ外部人材も入れ、本気で改革を進める体制を作っていただきたいです。	客観的なデータで最適な学びを考えることも大切ですが、AIの進展などで先の予測が難しい今の時代においては、自分の好きなことや得意なことをベースに行動する「主体性」がこれからはより大切な鍵になると考えています。 AIに関連して、芦屋市では8月からTBSと連携し、生成AIを使った個別最適で協働的な学びを深める実証研究を始め、専門家とともに、学校現場での活用の可能性を探っていきます。 英語に関連については、芦屋市のこともは英語力が高い反面、「好き」な子が少ないのが課題です。自動翻訳が進む時代だからこそ、単なる勉強ではなく、文化理解や世界とつながる楽しさが大切です。オンライン国際交流など、実際に英語を使う機会をこれからも増やしていきたいと思っています。	
23	8月17日(日) オンライン	一斉教育が合わないこともを受け入れるフリースクールの取り組みを公立でも進め、どこにも直接何に興味があるかを聞くことが大切だと考えます。関心のある分野を大学の研究室で学べる機会や、放課後の活動や子ども食堂のような活動で興味を喚起することが有効だと思います。		
24	8月17日(日) オンライン	教師を伴走者と呼ぶ考えに共感しました。 部活動の外部委託では勝利至上主義や指導者の暴力といった負の側面が出ないよう配慮してほしいです。	部活動の形が変わったとしても、これまで大切にしてきた良さや価値はしっかりと守っていきたいと思っています。もちろん、勝利至上主義や体罰といったことは絶対に防ぐのが大前提です。 芦屋市では8月から受け入れ先のクラブの募集を始めましたが、運営される方には必ず事前研修を受けていただくことにしています。体罰防止や、市が大切にしている価値観をしっかりと理解していただいた上で進められるよう徹底していきます。	
25	8月17日(日) オンライン	教育の効果が出るまでには時間がかかりますし、途中の経過を見ることも必要ですが、教育におけるKPIの設定は非常に難しい課題だと思います。この指標について、現在何か具体的なお考えはありますでしょうか？	KPIは設定しているのですが、教育の効果は長期的なもので、短期的な数値に一喜一憂しないよう気をつけています。 ただ、指標がないと「いつか良くなります」で終わってしまうため、しっかりフィードバックを回すために活用しています。 市では年4回、こどもたちの「主体的な学び」についてアンケートを取っています。昨年度のデータでは、新しいプロジェクトに参加した先生のクラスで、「自分で問いを立てる」「自分のペースで学ぶ」「先生が合わせて教えてくれる」といった項目が大きく伸びました。 現状を分析するために、このアンケートは今後も続けていきます。また、全国学力・学習状況調査についても、テストの点数だけでなく、主体性や意欲がわかるアンケート項目にしっかりと注目していきたいと考えています。	
26	8月17日(日) オンライン	昨年の「Ashiya Education Day in Summer」での先生の講演にもありましたが、幼児期の「非認知能力」の教育は非常に重要だと感じています。 小学校入学時の格差がその後の人生に影響するという研究を踏まえると、小中学校の義務教育以上に、幼児教育こそが鍵になるのではないのでしょうか。 そこで、芦屋市から「3歳からの幼児教育を義務化する」という流れを作ってみてはどうかと思うのですが、いかがでしょうか？	就学前教育が非常に重要だという点については、私も全く同じ思いです。 ただ、就学前教育は非常に捉え方が多様な分野でもあります。知識の獲得を重視する考え方もあれば、非認知能力の育成を重視する考え方もあります。芦屋市としては、テストには表れない「非認知能力」を育むことを大切にしています。現在も神戸女学院大学と連携した生き物探検など、自然の中での実体験を通じて探究心を育てる取り組みを行っており、今後も続けていきます。 一方で、どの施設にも通っていない就学前のお子さんへの関わり方や、家庭における「親の関わり」をどう高めていくかという点は、今後さらに研究し、取り組んでいくべき課題だと考えています。	
27	8月17日(日) オンライン	幼稚園選びの際、モンテッソーリやシュタイナー、公文式など、どの教育法が良いかと悩む親御さんは少なくありません。こうした教育法を体系化した「幼児教育の仕組み」を芦屋市として提示できれば、親御さんの悩みを減らす有効な支援になると思います。 結果として、幼児期に非認知能力がしっかり育ち、小学校入学後も自ら積極的に学ぶようになるという良い循環が生まれると思います。	小学校側の環境も同時に改善していく必要があると考えています。入学時に突然全員が椅子に座って前を向くという前提を続けるだけでなく、小学校の学びの環境自体を変えていくこともチャレンジしていきます。	

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
28	8月25日(月) 三条集会所	「ちょうどの学び」の現状について、詳しく教えていただけますでしょうか。 私の子どもの経験ですが、現場では先生によって対応に差があると感じています。下の娘が小2の時、算数の授業が退屈で先生に相談したものの、「あなたが先に進んでいるからだ」と流されてしまい残念に思いました。上の息子も授業が簡単すぎて、ただ時間を過ごすのはもったいないと感じているようです。 現状、どうしても授業のペースが一番下のレベルに合わせられているように見受けられます。早く課題が終わった子には別の課題を渡すなど、小学校の6年間を有効に使えるように、「ちょうどの学び」をさらに進めていただきたいです。	一人ひとりに合った学びを実現する上で「学習指導要領」という基準があります。(現在、私は改訂委員を務めており、資料も添付しています)。学年ごとに学ぶ内容は決まっていますが、その範囲内でも学びを深める工夫は十分に可能です。現状の制度の中でも、主体的に自分に合った学びを追求することはできると考えています。 ある調査では、小学4年生の3割が「授業が難しすぎる」、3割が「簡単すぎる」と感じており、「ちょうどいい」と感じている子は4割しかいません。多様な学力のこどもたちを一つの授業で教えるのは非常に難しいため、一部の学年や教科でAIドリルなどの導入を始めていますが、全体展開はこれからの課題です。	
29	8月25日(月) 三条集会所	「ちょうどの学び」について、「ちょうど」の基準を誰がどう決めるのかが気になっています。 算数が得意な子と苦手な子ではレベルが異なりますが、学習指導要領がある中でどう個別に対応していくのでしょうか。また、「ちょうどできている」と判断するのは先生なのか、生徒自身なのかも気になります。 もし考え方や概念があるなら、それを皆で共有できるような方法があると良いと思いました。	教育を変えるには、上からの強制ではなく、先生自身が本質的な価値に気づき納得することが重要です。昨年4月に10人で始まった新しい取り組みは、現在60人(全体の約2割)にまで広がりました。2割を超えると広がりが加速すると言われており、今後の展開に期待しています。 「ちょうど」の基準については、先生が与えるのではなく、「こども自身が決めるべき」だと思っています。こどもが「自分にとってのちょうどはこれだ」と思ったときに、それを認められる環境を作ることが学校の役割です。 実際に年4回行っている市のアンケートでも、新しい取り組みをしているクラスでは「主体的な学び」の数値が大きく向上しており、この方向性が正しいことがデータでも示されています。	
30	8月25日(月) 三条集会所	私自身は中学受験を経験し、学校の算数がとても暇で授業でもっと先の学びに進みたいと思っていました。一方で得意不得意があるため、不得意なこどもに合わせた支援も必要だと思います。 こどもの場合はデジタルの個別ドリルでちょうどのところを示してもらい、それで短期間に仕上がった経験もあるので、苦手なところをAIに頼るのは良い方法だと感じています。	一方で、「忙しすぎて新しい取り組みができない」という先生の切実な声もあります。今年1月から欠席連絡をアプリ化するなど、先生がこどもと向き合う時間を確保するための働き方改革を同時に進めています。 現在、文科省も含めて「今のままではいけない」という共通認識を持っています。学習指導要領が足かせになることは今後減っていくと思いますので、市としても予算等の環境整備を続けていきます。	
31	8月25日(月) 三条集会所	「ちょうどの学び」をどのように共通化するかが重要だと考えています。こどもの主体性を育む点でも「ちょうどの学び」は大事だと思います。芦屋市には小中学校の先生が約300人おり、現在は約2割の先生がこの取り組みに参加していますが、参加している先生方の感想やまだ取り組んでいない先生方の課題を共有してほしいです。また、こどもたちが自分に合った学びだと実感できることが重要だと思います。先生方が「ちょうどの学び」の概念を理解し前向きに取り組んでもらいたいです。	小学2年生のお子さんが勇気を出して伝えた思いに対し、「先に進んでいるから」と片付けられてしまったことは、非常に残念で配慮に欠ける対応だったと思います。お気持ちは深く理解できますので、いただいた貴重な声はしっかりと教育委員会に共有いたします。	
32	8月25日(月) 三条集会所	私の孫が小学1年生で、孫は分からない言葉に出会って家でAIに尋ねたり、普段の会話で知らないことをAIに聞くなど、小学1年生でもAIを活用していることに驚きながら、こどもが自分の気持ちを吐き出す場が減っているのではないかと感じます。今後の教育大綱ではこうした概念を大切にしているのと感じました。		
33	8月25日(月) 三条集会所	今年の夏にフィリピンの子立小学校と交流する機会がありました。現地の学校では高学年になると学力に応じてクラス分けを行っている様子があり、先生が変わるタイミングで学力や理解度に応じて内容を変えているのを見ました。日本の公立小学校で同様の仕組みを導入できないかと考えています。	「ちょうどの学び」には、習熟度別と「みんなで一緒に学ぶ」方法がありますが、公立学校では後者が大切だと思っています。国語や算数など、お互いの得意不得意を教え合う経験こそが公立の良さだからです。 ただ、それは「授業が退屈だ」という子がいないことが前提です。だからこそ、同じ教室内でどう深く学べる環境を作るかが重要になります。 実際の現場では、クラスを分けることなく、こども自身が「一人で集中する」「友達と教え合う」といった学び方を選べるようにしています。さらに、基礎から応用まで様々なレベルの課題を用意し、自分に合った問題を自分で選べるような環境づくりを、すでに一部で始めています。	

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
34	8月25日(月) 三条集会所	先生の人数が少なく負担が大きい状況で新しい取り組みを進めるのは難しいと感じています。来年度からは人材を増やせることや教育委員会や地域の権限が強化される計画があると聞いているため、可能であれば前倒して対応してほしいと考えています。こどもたちのことが心配です。	芦屋市の市立小学校8校、中学校3校の先生方は市の職員ではなく県の職員であり、市が独自に先生を増やすことは困難です。そのため市としてできることは事務職員を独自に配置し、給食費の徴収など先生が行っていた業務を教育委員会が引き受けるなどして先生の負担を減らすことです。インクルーシブ教育にも力を入れており、障がいのあるこどもが共に学べるよう支援員や介助員の配置時間を今年大幅に増やしました。不登校のこどもへの対応として心のケア担当職員を全校に配置し専用教室も設けています。授業を担当する先生の人数を大幅に増やすのは難しい一方で、先生でなくてもできる仕事はできるだけ切り離していく方針です。学校の価値は仲間と学び合うことにあると考えており、こどもたちが創意工夫できる環境づくりを教育委員会と連携して進めたいと考えています。	
35	8月25日(月) 三条集会所	学校は学び合う場であってほしいと考えています。私立にも当てはまりますが、学び合いの価値を大切にしてほしいです。先生方がこどもにしっかり向き合える時間を確保し、教育改革や働き方改革を進めてください		

当日の主なやりとり				備考 (補足説明など)
		市民の発言	市長の発言	
36	8月25日(月) 春日集会所	畑のない芦屋市で、子どもたちの食への関心をどう未来へつないでいくのが課題だと思っています。 この「食育」というテーマについて、市長や皆さまが現在どのようにお考えか、ぜひお聞かせいただけないでしょうか。	芦屋市の給食は全校に給食室と栄養士がおり、学校ごとに毎日違うメニューを出しているのがこだわりの一つです。一見非効率ですが、旬の食材を使ったり、小ロットだからこそハモのような珍しい食材を出せたりと、柔軟な食育ができています。地域のシェフと連携してお出汁を取る授業や下ごしらえ体験など、専門家の方とコラボした食育も面白いと考えています。	
37	8月25日(月) 春日集会所	小中学生へのアンケートの結果、「料理部」への関心が非常に高いことが分かりました。 そこで、進みつつある部活動の地域移行に伴い、私自身が料理部を事業化して担いたいと考えています。自分で料理をして家庭で食べることは、子どもたちの幸福度や主体性を育む大事な要素だと考えています。	部活動に関するアンケートでは料理部が一番人気でした。芦屋市の3つの中学校には料理部がありませんでしたが、今回地域に部活動を展開する取り組みを進めているので、これを良い機会として、子どもたちがやりたいと思っている活動を地域の方々と連携して実現したいと考えています。現在、地域クラブの募集を行っていますので、「こんなことができる」というアイデアがあれば、ぜひ後ほどお声がけいただけると嬉しいです。	
38	8月25日(月) 春日集会所	こどもがいる立場から、どの職業に就く場合でもしっかり食べて体を作ることは重要だと考えています。芦屋市の給食の取り組みを今後も維持してほしいです。 以前は調理師専門学校などで一般向けの料理教室がありましたので、そうしたところから講師を招くなどの工夫も楽しいかと思います。	給食の無償化について「芦屋市はやらないの?」とよく聞かれます。もちろん両立できれば一番ですが、私たちが一番心配しているのは、無料にする代わりに「こだわりの給食の質」が下がってしまうことです。それは絶対に避けたいと思っています。経済的にサポートが必要なご家庭にはすでに無償化の対応していますが、今のところ全員無償化は考えていません。 今後、国が無償化を進める際「芦屋市は財政に余裕があるから自分たちで」と切り捨てられないよう、しっかり働きかけを続けていきたいと思います。	
39	8月25日(月) 春日集会所	不登校を経験した娘がいます。中学校で2年間学校に行けず、始業式だけ出席できた際、給食費の復活の案内があり、申し込むと2か月は止められず、食べなくても費用負担が発生するため経済的に迷う家庭があると感じました。細かな運用の改善で登校のハードルが下がれば良いです。	給食費は1ヶ月単位での支払いとなっており、1日だけ来たら1日分だけ払うという対応は難しいのが現状です。不登校のこどもに寄り添うためにも、その点についてどのような対応が可能か教育委員会に確認してみたいと思います。	
40	8月25日(月) 春日集会所	精道中学校でボランティアをしています。正門のオートロック化について2つ懸念があります。 1つは、相談室登校の子どもたちがインターホンを押すことにハードルを感じて登校しづらくならないかということ。もう1つは、多数のボランティアが出入りする際の開錠が、学校側の手間にならないかという運用面の心配です。 また給食については、私自身が自校式を守る交渉をした経験や、現在も現場が努力してくれている姿を見ているため、私も給食の質を優先して無償化はしない方が良いと思っています。		
41	8月25日(月) 春日集会所	教員経験から自校方式の給食は明らかに美味しく、調理師のやりがいにもつながるかと感じています。給食が不登校の改善につながることもあると考えています。 オートロックなどの学校の安全確保や外部の協力についても教員として取り組むべきだと考えています。	学校の安全確保は大前提ですが、遅れてきた子や不登校の子が「扉が閉まっているから帰ろう」と登校を諦めてしまわないよう、来やすくなる配慮を一番に考えています。同時に、開錠対応が先生の負担にならないよう、市独自で事務職員を配置するなど体制を整えています。 教育面では、レベル別のクラス分けはせず、同じ教室の中で教え合い、学びの深さを変える公立ならではの良さを大切にしたいと思いますし、タブレット等も活用し、一人ひとりに合った多様な学びを実現したいと考えています。	
42	8月25日(月) 春日集会所	芦屋はコンパクトなまちなので、地域住民と連携して、退職された方などが学校の入口に常駐する仕組みが作れないかと考えています。地元のご年配の方が守衛さんのように温かく迎えてくれれば、不登校の子どもたちも学校に入りやすくなるはずです。地域の方の活躍の場にもなりますし、こうした地域の繋がりを活かした「芦屋モデル」のような仕組みができないかと思います。	芦屋市は今後、インフラの修繕等で財政が厳しくなります。事業の見直しは生じるかもしれませんが、工夫して「暮らしの質」は維持していきます。なお、コストのかかる自校式給食ですが、設備投資が済んでいるため基本的に継続する予定です。	
43	8月25日(月) 春日集会所	芦屋の自校式の給食や食育に強く共感しているので、今後も続けてほしいです。しかし、将来的な人口・財政減少の中で、コストのかかる自校式を市長がいなくなった後も維持できるのか心配しています。		

当日の主なやりとり			備考 (補足説明など)
		市民の発言	
44	8月25日(月) 春日集会所	就学前の息子がいますが、保活に非常に苦労し、認可外を経てやっと認可保育園に入れました。芦屋市は高齢化・人口減少が進んでいて、若い世代を定住させる必要があると感じていますが、市内の保育施設は統合・縮小が進んでいる印象があり、今後の拡充予定はあるのでしょうか。また、所得基準で保育料が高くなるため、多額の住民税を払っているのに還元が見えづらく、もやもやしています。今後の展望を教えてください。	
45	8月25日(月) 春日集会所	保育施設を運営していますが、少子化で経営は厳しく、若い世代が市に来てくれることに期待しています。 教育面で一番の課題は「小1プロブレム」です。保育所では個に寄り添う保育をしますが、小学校では一斉指導になるため環境のギャップがあります。幼保と小学校の先生の交流機会も少なく感じます。 また、学校側から「馴染めないのは保育所のせい」と上から言われ、保育所側が謝ってしまう関係性も課題だと思います。海外のように時間をかけて学校に慣れさせる仕組みも参考にしつつ、お互いが立場を理解し合い、子どもがなだらかに学校へ移行できるよう現場で工夫や研究を進めて頂ければと思います。	
46	8月25日(月) 春日集会所	2人の子どもがおり、保育園と幼稚園に1人ずつ通わせています。本当は2人とも保育園に入れたかったのですが、空きがなく1人は幼稚園になりました。ただ、幼稚園は比較的空きがあり、延長保育も使えて施設にも余裕があります。西宮に住む親族の保活が絶望的に厳しいと聞いており、それに比べると芦屋市はまだ受け入れのキャパシティに余裕があるように感じます。もしこれが事実なら、市の強みとしてもっとアピールしてはどうでしょうか。	
47	8月25日(月) 春日集会所	道徳教育に関心があります。勉強が苦手な子ども、優しさなどの良い面が見つかりやすいのが道徳の良さだと考えています。 一方で、正解がなく時代で価値観も変わるため、アップデートが必要だと感じています。市長が推進している「先生方が主体的に授業を作る取り組み」を、ぜひ道徳の授業にも活かしてほしいです。	道徳教育は非常に重要だと考えています。国は現在、価値観の押し付けではなく、対話や議論を重視する「考える道徳」を目指していますが、専門教員が少ないなどの課題もあります。 市の教育委員会でもこの方向性を推進しているため現状を確認するとともに、いただいた「ONE STEPpersに道徳教育を取り入れる」というご提案は大変良いアイデアだと思います。
48	8月25日(月) 春日集会所	今後の教育の指針はOECDの「ラーニングコンパス2030」だと考えており、「個人と集団のウェルビーイングの追求」と「生徒エージェンシー（主体性）を伸ばすこと」が重要だと思っています。芦屋市も生徒エージェンシーに注目していると思いますが、幸福の追求や先生と一緒に取り組む教育は今後ますます必要になります。市長はどうお考えでしょうか。	ウェルビーイングを大前提に、心理的安全性が確保された「安心して失敗できる学校づくり」が大事だと思います。いじめの定義が広く現場対応は難しいですが、人間関係の失敗も含めて学べるよう、学校・子ども・保護者が協力し合うことが大切です。 市内では弁護士が小5～中3全員に授業を実施しています。法律の押し付けではなく、互いを尊重する意味を共に考える「民主主義を作る第一歩」としての取り組みです。絶対に許されない行為には厳格に対応しつつ、安心して失敗できる環境をみんなで作っていきます。 なお、「あしやトライあんぐる」8月配信分で教育長とこのテーマで対談していますので、ぜひご覧ください。
49	8月25日(月) 春日集会所	先生方が頑張っても成果が還元されにくい現状では、環境改善だけではモチベーション向上には不十分だと感じています。芦屋の教育を効果的に全国に展開するには、成果を見える形で示し、先生方が共感しながら教育大綱を前に進めることが必要だと思います。先生のモチベーション向上に向けた具体的な施策をお聞かせください。	今日紹介した先進的な取り組みは、現在約20%の先生が参加しています。取組への参加は全員に強制するのではなく、やりたい先生を応援する方針をとっています。教育の質は、先生のモチベーションに大きく左右されるからです。現場からは「働き方改革で空いた時間を、授業を良くするための学びに使いたい」という前向きな声が多く聞かれます。そこで、先進的な学校へ1週間派遣するなどの学びの機会を提供し、以前はほぼゼロだった予算も現在は約300万円弱を確保して支援しています。 実際、先生同士のロコミで参加の輪が広がっています。スピード感も大事ですが、無理やり進めるのではなく、今後も先生方の主体的なモチベーションを大切にしながら、この流れを広げていきたいと考えています。